

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
国際ペット総合専門学校	平成16年12月28日	刑部 節	〒320-0804 栃木県宇都宮市二荒町6-6 (電話) 028-614-2337																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人ティビィン学院	昭和60年3月16日	齋藤 武士	〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1-2-5~6 (電話) 028-622-8110																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
文化・教養	文化・教養専門課程	ドッグトレーナー&アニマルケア学科	平成28年文部科学省 告示第18号	—																		
学科の目的	企業と連携し、飼育員やドッグトレーナーに関する知識・技術を修得させることを主に、グルーミング技術を高めることで犬体を清潔で健康的に飼育管理できるようにする。また、専門技術だけではなく、必要なコミュニケーション力も身に付けさせ、将来関係業界で活躍できる人材を育成する。																					
認定年月日	平成29年2月28日																					
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																
2	2,280時間	510時間	76時間	1,694時間	0時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
60人	48人	0人	2人	4人	6人																	
学期制度	■前期: 4月1日~9月30日 ■後期: 10月1日~3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目ごとに試験を行い、A,B,C,Dにより評価を付ける。																		
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月第5週目から8月第3週目まで ■冬季: 12月第3週目~1月第1週目まで ■学年末: 3月第2週目から4月第2週目まで		卒業・進級 条件	① 連年の成績評価が全てC以上であること。 ② 各学科により指定された認定試験に合格すること。(該当する場合のみ受験) ③ 各学科により指定された基準検定を取得すること。 ④ 90%以上の出席率であること。 ⑤ 各科目それぞれ70%以上の出席率及び80%以上の総出席率であること。 ⑥ 学費、その他学校納付金の納入が完了していること。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、三者面談、保護者との連絡		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ・栃木県動物愛護指導センターにて保護犬猫のお世話 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) ペットA那須塩原店、株式会社フォレストヒルズ、神明畜産株式会社、 COO&RIKU山形店、ペットリゾートカレッジ日光、株式会社かねだ、 ■就職指導内容 就職研修(面接指導、ビジネスマナー講義)、就職先紹介、企業 実習の実施など ■卒業生数 14 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職者数 11 人 ■就職率 84.6 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 78.6 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 2 年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本動物専門学校協会 ドッグトレーナーライセ ンス1級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>全国ペット協会主催家 庭動物管理士3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>フリスビードッグインス トラクター</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③の いずれかに該当するが記載する。 ① 国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ② 国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得する もの ③ その他(民間検定等) ■自由記述欄</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	日本動物専門学校協会 ドッグトレーナーライセ ンス1級	③	14人	14人	全国ペット協会主催家 庭動物管理士3級	③	21人	20人	フリスビードッグインス トラクター	③	14人	13人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
日本動物専門学校協会 ドッグトレーナーライセ ンス1級	③	14人	14人																			
全国ペット協会主催家 庭動物管理士3級	③	21人	20人																			
フリスビードッグインス トラクター	③	14人	13人																			
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名 平成2年4月1日時点において、在学者35名(平成2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者33名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 持病の治療、進路変更のため ■中退防止・中退者支援のための取組 性格検査を取り入れた個別指導教育法を行っている。定期的に個人面談および三者面談を行い、保護者と連携した指導を行っている。退学防止委員会を設置し、学生 情報の共有を図り、学校として学生とともに問題解決を図るべく努力している。また、校内に学生相談室を設け相談にのっている。		■中退率 6 %																			
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 学費給付試験制度・家賃支援奨学金制度・家族入学奨学金制度・卒業生奨学金制度・奨学生試験の実施 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科の ホームページ URL	http://www.fashionpet.ac.jp/pet/course/breeding_training.php																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

飼育・しつけ学科の学科目的に基づき、専門分野に係る企業等と連携し、就業先業界における専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを把握分析し、当該学科の教育課程の編成に資する。

(活動)

- ① 関連業界の専門性に関する動向について把握・分析する。
- ② 新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などについて把握・分析する。
- ③ 当該専門課程にふさわしい授業内容や授業方法の工夫・改善を図る。
- ④ 当該専門課程にふさわしい授業科目の開設等を協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ① 校長の管理下、本校各種委員会(諮問機関)に位置付け、企業等委員と連携し今後の教育課程の編成に資する。
- ② 校長は当該委員会の答申を受け、運営委員会に諮り全体会議で協議の上、教務部のもと関係学科が教育課程の編成に当たる。

(運営)

- ・当該委員会を本校内に設置する
- ・委員は、企業等委員(業界団体等委員及び企業委員)と学校委員とする。
- ・委員長は学校長とする。
- ・年2回以上実施する。
- ・協議結果をできるだけ重視し、関係学科の教育課程に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
松山 秀博	一般社団法人全国ペット協会 常務理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	①
森村 晃一	株式会社hagumee 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
刑部 節	国際ペット総合専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
大塚 一弘	国際ペット総合専門学校 副校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
紙本 一郎	国際ペット総合専門学校 教務部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
大里 亜矢	国際ペット総合専門学校 ドッグトレーナー&アニマルケア学科担当	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
檀 守	国際ペット総合専門学校 ドッグトレーナー&アニマルケア学科担当	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年7月31日 13:20～15:20

第2回 令和2年10月30日 14:30～15:40

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

●飼い主さんの話から問題行動に関わるきっかけを聞き出し、分析できるような能力がつけられるような授業内容を組み込めるといい。また、犬のストレスを軽減する、苦痛を感じにくくするようなトレーニング、ハズバンダリートレーニングを取り入れるといい。他学科と擬似診察のようなことを行い、病院での立ち振る舞いなどのトレーニングを実際に行なうなどしてみてもいいのではないか。との意見をいただいたので、「ドッグトレーニング実習Ⅰ」「ドッグトレーニング実習Ⅱ」の授業で取り入れられるかを今後検討する

●ペット犬専門であれば服従訓練(CD1など)はあまり必要ないのではないか。その中で必要なものとして家庭や公共の場でのマナー。ちょうどいいものとしてJKCのオビディエンス競技を取り入れてみるのはいかがでしょうか。との意見をいただいたので、「ドッグトレーニング実習Ⅰ」「ドッグトレーニング実習Ⅱ」の授業で取り入れられるかを今後検討する

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針		
<p>実際に犬や展示動物に触れ、現場で企業講師等から直接指導を受けることによりに即戦力となる最新の知識・技術を修得するとともに、飼育員としての素養を身に付ける。また、ホリスティックケアの最新の知識・技術を企業講師等から直接指導を受けることで修得する。</p>		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容		
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記		
① 担当教員と企業講師は事前に打合せを行い、実習内容の詳細について、「実習計画書」及び「評価基準」を作成する。		
② 実習期間中は、担当教員と企業講師が連携し、学生の進捗や理解、授業態度や様子等について連絡し合い、その後の実習や授業運営に役立てる。		
③ 担当教員と企業講師は学習成果について協議し、さらなる指導の改善・工夫を図る。		
④ 実習修了後には、企業講師による学生の学習成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・科目修得認定を行う。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
校外飼育実習	宇都宮動物園では、動物園スタッフの仕事を経験することで、小型から大型までの展示動物の飼育方法や展示方法を実践的に学ぶ。	宇都宮動物園
ペットエステティック	ペットの「心・体・食事」のケアについて、主に自然療法を用いて幅広く学び、ペットの健康管理について飼い主様に正しい知識を教え、普及させる人材を育成する。(マッサージ・アロマセラピー・食事作りなど)	チャーム・ケネル
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
関係企業等と連携し、飼育やしつけを中心としたペット業界に関連する最新の知識・技術並びに、学生に対する指導力等の修得・向上のため、企業等から講師を招いての校内研修及び職能団体等が実施する校外研修等への参加等を組織的・計画的に推進する。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
<p>研修名「ドッグダンス特別講座」(連携企業等: Sunny Side Dogs、株式会社Wonder 代表取締役社長 伊藤 哲朗) 期間: 令和2年6月9日(火) 対象: ドッグトレーナー&アニマルケア学科教員 内容: 昨今注目されてきているドッグダンスの技術の修得のため、2018年10月にスイスで行われた世界大会にも出場経験のある伊藤哲朗氏を招き、現在のドッグトレーニング法や実際に行われているトリック(芸)の教え方から学ぶ。</p>		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
<p>研修名「ディスクドッグ講習会」(連携企業等: ハイパーフライトジャパン) 期間: 令和2年9月22日(火) 対象: ドッグトレーナー&アニマルケア学科教員 内容: ディスクドッグ大会の採点の仕方や、ディスクの正しい投げ方について学ぶ</p>		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
<p>研修名「ドッグフォト講座」(連携企業等: 写真家 杉本奈々重) 期間: 令和3年7月16日(金) 対象: ドッグトレーナー&アニマルケア学科教員 内容: コマーシャルフォトや企業の季刊誌の撮影などを行っている杉本奈々重氏から、動物業界で働く上で、一つの技術としてペットの写真をいかにうまく撮影し、広告やマーケティングとして活用できる技術の習得</p>		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
<p>研修名「ディスクドッグ講習会」(連携企業等: ハイパーフライトジャパン) 期間: 令和3年10月9日(土) 対象: ドッグトレーナー&アニマルケア学科教員 内容: ディスクドッグ大会の採点の仕方や、ディスクの正しい投げ方について学ぶ</p>		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教職員による自己評価について、学校関係者評価を行い、学校の現状と課題を明らかにし、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資する。

- ① 自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- ② 学生、保護者、教職員、関係企業等調査により、学校の現状を把握する。
- ③ 授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- ④ 学校運営の改善に向けた取組が適切かどうか評価する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実践されているか ・関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産業連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- 今後も社会のニーズ、業界のニーズの把握を努め、それらを柔軟に取り入れていきたいと考えており、そのひとつとして、猫についての勉学をペットスペシャリスト学科で取り入れていきたいと思っているが、企業等委員の方よりご意見をいただきたいとの問いに、全ての企業等委員より、猫の勉強は取り入れるべきとの意見をいただいたので、教育課程に取り入れていくこととした。
- さらに教育を充実させるためには、どのような施設・設備等が必要か、またはどのような教育環境が必要だと思うのか教えていただきたいとの問いに、「生きた動物に触れる機会を沢山与えてほしい」といった意見をいただいたので、生体に触れる機会を増やすこととした。
- 卒業生への支援として、どんなものが良いと思うとの問いに、「講習会を開いてもらえれば参加したい。しかし学校に来て話を聞いてもらうだけでも十分な支援となっている。」との意見をいただいたので、今後も卒業生向けの講習会を定期的開催し、また卒業生向けの相談会を開催していくこととした。
- 保護者目線で感想や要望等があれば、ご意見をいただきたいとの問いに、「インターンシップに行くことで目標が明確になった。現在コロナの影響でイベント等が出来なくなっているが学生には様々な機会を与えてほしい。」との意見をいただいたので、今後もインターンシップ(企業実習)を全学科に取り入れ、コロナ禍ではあるが感染防止を徹底のうえ、イベント等への参加を積極的に行っていくこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
松山 秀博	一般社団法人全国ペット協会 常務理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
亀井 眞起	ドッグサロン GEN'S DOG オーナー	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
森村 晃一	株式会社hagumee 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
浅井 洋子	うつのみやペットクリニック 院長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
池田 宏明	株式会社日本医療器 営業部課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
田中 愉可	保護者代表	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	保護者代表
前田 佳穂	卒業生代表	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.fashionpet.ac.jp/pdf/pethyoka.pdf>

公表時期: 令和3年7月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・公的教育機関として、教育活動や取組について、社会への説明責任を果たす。
- ・教育組織等の情報のほか、教育活動の公表を通じて本校教育の質の向上を図る。
- ・わかりやすい積極的な情報提供により、地域社会全体の信頼を得る。
- ・特色ある職業教育を対外的にアピールし、関係業界、地域住民、学生、保護者等の理解や支援を得る。
- ・日常的・組織的に公正な情報収集・提供に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育目的、目標及び計画、校長名、所在地、連絡先、学院・学校の沿革・歴史
(2) 各学科等の教育	入学者に関する受入れ方針及び入学者数・収容定員・在学生数、進級・卒業要件等、取得を目指す資格・検定等及び実績、卒業者数・卒業後の進路、カリキュラム、時間割
(3) 教職員	教職員数、教職員研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況、就職支援等への取組支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学科行事
(6) 学生の生活支援	学生支援の組織、学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援等の措置の内容
(8) 学校の財務	貸借対照表、消費収支計算書
(9) 学校評価	自己点検・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生入学規定(募集要項)
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.fashionpet.ac.jp/pdf/petjoho.pdf>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ドッグトレーナー&アニマルケア学科) 令和3年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			ドッグトレーニング実習Ⅰ	犬の基本的な扱い方、オビディエンス（服従訓練）の基礎を学習する。	1通	456				○	○	○	○		
	○			ドッグトレーニング実習Ⅱ	1年時の基礎をもとに、より高度なオビディエンスとアジリティー、ドッグスポーツを学習する。	2通	456		○	○	○	○	○	○		
	○			校外飼育実習	宇都宮動物園にて、園内の清掃、獣舎の清掃、大型動物の飼育法、展示法を学習する。	1通	228			○	○	○	○	○		
	○			展示動物飼育学Ⅰ	肉食獣・草食獣などの展示動物の飼育管理方法、展示法を学習する。	1通	76		○	○	○	○	○	○		
	○			展示動物飼育学Ⅱ	動物園の運営方法・危機管理対策・大型動物の展示法を学習する。	2通	76		○	○	○	○	○	○		
	○			動物看護学Ⅰ	動物の形態、骨の名称、各器官の働きについて学習する。	1通	38		○	○	○	○	○	○		
	○			動物看護学Ⅱ	動物の病気、治療法、対処法、衛生学について学習する。	2通	38		○	○	○	○	○	○		
	○			動物栄養学	基本的な栄養素の働き、動物に必要な栄養素、食事法やペットフードについて学習する。	2通	38		○	○	○	○	○	○		
	○			犬学	犬の歴史から基本的な習性、ワーキングドッグ、犬種学について学習する。	1通	38		○	○	○	○	○	○		
	○			品種学	犬以外のコンパニオンアニマルを中心に猫やエキゾチックアニマルの習性や飼育管理法、品種について学習する。	2通	38		○		○	○	○	○		
	○			しつけ概論Ⅰ	基本的な訓練の種類と方法、理論について学習する。	1通	38		○	△		○	○	○		
	○			しつけ概論Ⅱ	犬の行動発達やパピートレーニング、トイレトレーニング、クレートトレーニング、社会化について学習する。	2通	38		○	△		○	○	○		

13	○		企業実習	動物関係の企業で実習を行う。	2通	30				○		○		○	
14	○		グルーミング実習Ⅰ	犬の扱い方、爪切りやシャンプー、ブローなどのグルーミングの基礎を学習する。	1通	228				○	○			○	
15	○		グルーミング実習Ⅱ	シャンプー、ブローだけではなく、犬体のカットも含めグルーミングの応用を学習する。	2通	228				○	○			○	
16	○		ペットエステティック	犬猫に有効なリンパマッサージやツボ、アロマの効能、おやつについて学習する。	2通	76		△	○		○			○	○
17	○		ペットショップ学	家庭動物管理士検定対策としてペット業界で働く上で必要な法律、職業倫理、動物の習性、飼育管理などについて学習する。	1通	38		○			○			○	
18	○		就職実務Ⅰ	履歴書の書き方や面接指導など就職活動に向けた対策をする	1後	16		○	△		○			○	
19	○		就職実務Ⅱ	社会人としての心構えやビジネスマナーなど社会に出るに必要なものを学ぶ	2通	38		○	△		○				
20	○		パソコン実習	WordやExcelなど基本的なパソコンの使い方を学習する。	2通	38					○	○			○
合計					20科目		2,250単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件 1) 通年の成績評価が全てC以上であること。 2) 各学科により指定された認定試験に合格すること。(該当する場合のみ受験) 3) 各学科により指定された基準検定を取得すること。 4) 90%以上の出席率であること。 5) 各科目それぞれ70%以上の出課率及び80%以上の総出課率であること。 6) 学費、その他学校の納付金が完了していること。	1学年の学期区分	2期
履修方法 学科ごとに指定された出課時数および、定期試験の合格を持って認められる。	1学期の授業期間	38週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。